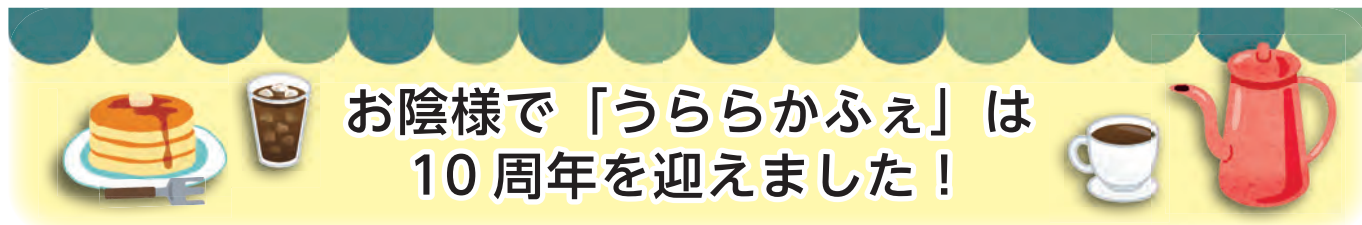


エンパワーするNGO



京都 YWCA 11 2024

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。



お陰様で「うららかふえ」は 10周年を迎えました！

2024年9月にふれあいの居場所食堂「うららかふえ」は10周年を迎えました。9月9日に、これまで、そして今かふえに関わっている人たちが集まり賑やかに交流会を行いました。立ち上げに尽力された会員の宮武美知子さんに、オープンまでの約5年の日々を振り返っていただきました。

「うららかふえ」誕生まで

2009年に京都YWCA「中長期ビジョン・プロジェクトチーム」が発足した。その4つのテーマの一つである多世代・多文化の人々が集う場として、「食」を通じ人と人とがつながる「ふれあいの居場所」をつくることを目指した。2010年度かふえ検討委員会、2011年度ふれあいの居場所事業検討委員会を経て2012年度カフェ事業委員会が発足し、運営の基礎固めを担った。京都YWCAにはそれ以前から料理教室やお菓子作りグループ、バザーでの模擬店を担う人々が各々独立して活動していたが、カフェを始めるに当たり各グループが連携、協力し共に活動し始めた。

2010年に月2回実施されていたスリフトショップ（リサイクルセール）が35周年を迎えたのを機に、スリフトショップの日に、玄関ホールを使い活動グループが作ったお菓子を出すカフェを開催し、クッキーとケーキも販売した。2011年には本館キッチンの改修がなされ、新キッチンとミニホールが新設された。月2回のカフェも玄関ホールからミニホールへ移行し、スリフトランチも出すようになった。この活動が2014年9月のうららかふえ開業までの重要な準備期間となった。

「うららかふえ」に込めた思い

会員からカフェの名称を募集してカフェの名前を麗らかな



ミニホールでのスリフトランチ（2012年）

カフェとなるように「麗らか」と「カフェ」の「か」を重ね「うららかふえ」と命名。またカフェ事業コーディネーターとして専従職員を採用、働き手はYWCAの内外から募集。カフェ料

理や営業のコツを学び、衛生管理の講習会にも多くのメンバーが参加し、飲食店及び製菓業営業許可書取得、ボランティアを募集し基礎固めの時期は終了した。

カフェ事業発足当時の思いは、お年寄り、子育て中の母親、外国人女性、障害者、引きこもりの人々の居場所、人と人々を繋ぐ、安全・安心な食材でYWCAならではの手作りカフェを実現したいということだった。今後もその思いを忘れず続けて欲しいと願う。

（宮武 美知子）

現在のうららかふえ

——安全・安心の居場所（セーフスペース）として

今うららかふえは、さまざまな背景をもつ人々が集まる安全・安心な場としての役割も果たしています。介護予防体操を行う「いきいきタイム」、縫い物などの作業を楽しむ「ちくちくかふえ」、気軽なおしゃべりの場「Chatting Cafe」、着物のリメイクをする「きものリフォーム」が活動しています。京都府の若者就労支援事業として、ランチの調理や接客に参加する若者も途切れることがありません。

2023年からは、生きづらさを抱える若者の居場所として「YここKitchen」が週4回開かれ、自立援助ホーム「カルーナ」の退所者やその知人、外国籍の子どもたち、若者就労支援事業に参加している若者たちが集っています。



10周年交流会でお話される宮武さん

開業当初の思いと目的を忘れず、安全・安心の居場所（セーフスペース）を継承していきたいと思います。

「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」開始から 10 年

サマリア館と本館の数カ月におよぶ改修工事を終えて、10 年前の 2014 年 9 月、京都 YWCA で 3 つの新事業がスタートしました。女性向け高齢者住宅「サラーム」、ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」、留学生寮「あじさい寮」です。

これらは、国土交通省が高齢者の新しい住まい方の提案を募るモデル事業募集に応募し、選定された提案に沿って開始されました。京都 YWCA の提案は「女性高齢者に住まいと社会参加の機会を提供する多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」というものでした。

この提案は、京都 YWCA の今後の活動と事業の方向性について、会員と職員が何度も議論を重ねた中から生まれたものでした。提案書には「市民活動拠点として蓄積したコーディネート力を活かして、高齢者、子育て世代、若者、外国籍住民を含めた多様な特性をもつ人々を結び、魅力ある多世代・多文化コミュニティを創ることができる



サラーム居住者との交流ランチ会@京都御所

のではないか」という一文があり、そこに私たちの思いが込められています。

半年後の 2015 年 4 月には、このモデル事業の一環として、社会的養護を必要とする若い女性のための自立援助ホーム「カルーナ」を開所しました。

女性のエンパワメントとセーフスペースの提供 ——展開・進化する事業

また、2020 年には「京都 YWCA あじさい保育園」が誕生し、長年続けてきた子育て支援活動と協働して、保育内容の充実に努めています。「うららかふえ」は人々が交錯する場として、近年は若者の居場所づくりとも連携し、多様な人々を巻き込んだ安全・安心の居場所（セーフスペース）づくりに挑んでいます。

担い手の減少という課題を抱えて持続可能な形を模索していますが、本モデル事業を構成する各事業は、会員活動に大きく支えられ少しずつ形を変えながら展開し、進化しつつあると言えます。

サラームの入居者も、10 年の間に徐々に入れ替わってこられました。去る 9 月 30 日には、この春好評だった京都御所の中立売休憩所でのランチを秋も楽しみ、交流しました。当初目指したように、サラームの居住者の方々も、会館で出会う人々とふれあい、社会参加を楽しみ、充実した老後を送っていただくことを願っています。

(上村 愈巳子)

オープン 10 周年 シリーズ「うららかふえ」こぼれ話④

🍵 うららかふえのアンティークの椅子 🍵

10 年以上前、「うららかふえ」オープンの経費を抑えるため、10 人以上の会員で業務用中古店を訪れたりして準備をした。今かふえにある椅子のほとんどはそこで買ったものであるが、かふえの椅子の中に写真の椅子 2 脚が混じっている。

ある日、京都 YWCA 近くの烏丸通りを通っている時、大きなお屋敷の前に大型ごみが出されていた。その中にあったアンティークの椅子 2 脚が目にとまり、そのお屋敷の家主さんからもらい受け、YWCA まで抱えて帰った。座る部分は傷んでいたため、寄付でもらっていた鮮やかなオレンジ色の絹の布に自分で張り替えた。テーブルとの高さの相性もよく、張り替え時に比べたら布が少しくたびれているものの、今も健在である。思ったより長持

ちして驚いている。

うららかふえにお越しの際は、その椅子を探して座ってみてください。そして、こんなことがあったことを思い出してほしい。

(イエニック ふたみ)



活動グループ紹介シリーズ③

「聖書に親しむ会 金曜日」入 順子牧師

京都 YWCA の皆さまには本当に長い間、活動グループとしての「聖書に親しむ会」を支えてくださり、ありがとうございました。この会は 2010 年秋より始まりまして、14 年続いたことになります。

同志社大学キリスト教文化センターの公開講座の中で、わたしが担当していた聖書のクラスがなくなることになり、継続を望むメンバーたちと、ウイングス京都で半年、そして、会員の勝山久仁子さんが京都 YWCA のプログラムにと声をかけてくださり始まったものです。ですから、参加メンバーの約半分が男性であるのは、同志社の公開講座からのメンバーであるからです。

毎月、第二金曜日の午後 2 時から、ともに聖書を読み、ディスカッションをし、時には聖書から脱線することもあり、とても楽しいときを過ごしてきました。14 年間でマルコによる福音書、ヨハネによる福音書を読み、その他にもイエスのたとえ話シリーズ、聖書における「数」など、さまざまなテーマをともに学びました。

毎年、12 月にはクリスマス会、1 月には「その年の干支と聖書」です（干支の中で聖書に出てこない動物は何

でしょうか?）。レジュメを用意するのはわたしですが、さまざまな分野に詳しいメンバーの方たちから教わることも多く、かけがえのないときを過ごしました。

14 年間のうちに召天された方、また、高齢になって通うことができなくなった方たちもおられました。今回、わたし自身が兵庫県の教会に転任することになり、100 キロ近く離れているため、残念な思いでいっぱいですが、この会を卒業させていただくことになりました。本当に長い間お世話になり、ありがとうございました。

（入 順子 日本キリスト教団京都教会担任牧師）



聖書に親しむ会 金曜日の様子

第 3 期 LA「多様な人々が集う居場所づくり」連続学習会②

当事者と共に場をつくるヒントを学ぼう！

～当事者・地域・企業と協働する方法とは？～

8 月 31 日、「認知症になっても活躍できる社会をつくりたい」と活動されている「まあいいか labo きょうと」の平井万紀子さんを講師に招いて学習会を開いた。平井さんは、認知症になったお母さんが働きたいと言われ、その思いを受けて町のお店を借りて不定期に開催するレストラン「まあいいかカフェ」を始められた。認知症への理解の促進の必要性和、地域と協働するカフェの立ち上げから今までの活動についてのお話を伺った。

平井さんは、実際に事業をどうやってきたのか、何を見てどう感じてきたかを語られた。アイデアを考え、突破口を見つける、いろいろな支援・意見をもらえる関係をつくる、もらった意見には感謝の気持ちを忘れないが「取舍選択」はするなど、ヒントがいっぱい。

平井さんのお話はパワフルで、思いを持って動く事が実現への道につながると思った。「福祉の世界とは無関係だった」と幾度か言われたが、福祉を特殊化しないで、地域に開き、地域を巻き込む事が大事であると語られた。

会場でのグループワークからは、実際の運営や収支、人集めについてなど具体的な質問が出た。

思いを持って行動につなげること、そして多くの人に関わってもらうのが大切。京都 YWCA の「うららかふえ」は場所と食事づくりのボランティアは提供できるので、「まあいいかカフェ」の企画を持ってきていただきコラボするのはできそうだと思う。町中の居心地の良いカフェとして、ウィンウィンの関係を築けたらと思う。



熱をこめて話される平井さん（左端）

社会課題を、当事者を含め、地域みんなで解決するために動いてみる事が始まりと感じた。

（青野 美佐江）

夏のプログラム報告

【大文字鑑賞会】

2024年8月16日（金）五山の送り火鑑賞会を行いました。

多様な背景をもつ方々が集い、ともに伝統行事を楽しみました。



【夏休み小学生居場所プログラムーガジュマルの樹】

8月21日（水）「ガジュマルの樹夏休みデアウト」



を行いました。
15名の子ども達がウクライナについての話を聞き、科学実験を楽しみました♪

ご協力ありがとうございました

2024年8月1日から9月30日までの寄付者一覧（敬称略、順不同）

各指定寄付

* 法人支援

上村愈巳子、安藤いづみ

* 親・子育て支援活動委員会

親子ライブラリー

* APT

内田祐子、四方敏行、ヘイナ啓子

* 活動グループ

手話サークル

* ふれあいの「居場所」事業部委員会

若者就職支援まかない募金、近藤純弘、別所加恵、平野富希、小川恵美子、横川幸治、乾聖陽

* 自立援助ホーム「カルーナ」

宮川道子、手島千景、平城智恵子、近藤純弘、上村愈巳子、坪野えり子、小杉穂子、竹森洋子、森本純代、竹岡哲郎、井上ゆかり、横川幸治、岩田えり子、匿名2名

* 賛助費

山本千鶴、清水慶子、西村温美、高野朗、大城美代子、白根睦久、中川愛子

今後のプログラム

◎ YMCA・YWCA 合同祈禱週集会 2024

「自然現象に学び、信仰をもって歩む

～水・地・火・風をテーマに～」

■日 時：11月30日（土）13:30～15:15

■場 所：京都YWCA（オンライン参加可能）

■参加費：500円（対面のみお茶・お菓子代として）

■ランチ：うららカフェでランチも用意しています！ぜひご予約ください。

■内 容：今回は、ユース支援×災害支援をテーマに、困難を抱える人々にどんなセーフティネットを私たちは備えることができるのかを共に考えます。

■主 催：京都YMCA、京都YWCA

◎ 【協賛】 水俣・京都展

京都YWCAは協賛団体として前売りチケット（1,300円）を販売いたします。

詳細はQRコードよりご覧ください。

■会 期：2024年12月7日（土）～12月22日（日）

午前9時30分～午後5時

■会 場：京都市勧業館みやこめっせ

■内 容：パネルの展示、講演会などの開催、水俣病ブックフェアなど

■主 催：NPO 法人水俣フォーラム



◎ あきまつり

子どもも、おとなも、よっといで！

みんなで秋の午後を楽しもうよ！（参加申込不要です）

■日 時：11月17日（日）13:30～16:30

■場 所：京都YWCA

■参加費：親子（子どもとおとな各1名）1,000円

子ども500円、おとな700円 1歳未満は無料

■内 容：聴くだけじゃない音楽会、親と子のリズム遊び体験、竹パン、絵本のお部屋、みつろうワークショップ、多文化（インドネシア舞踊）体験、ビッグアートなど

■主 催：京都YWCA 親・子育て支援活動委員会

■協 力：京都YWCA あじさい保育園

9・10月／理事会報告

- 9/9：うららかふえ 10周年交流会を実施（本誌P1参照）
- 生きづらさを抱える若者の居場所「YここKitchen」特別プログラムとして9月～12月に4回、心理教育プログラムを実施
- 10/5：3市YWCA連携事業第3期LA（ローカルアクション）シンポジウム「多様な人々で集う屋下がり居場所（セーフスペース）シンポジウム」を横浜・福岡YWCAと共催

- 10/19：第3回「地球にやさしい人とのをつなぐプチマルシェ」開催
- 10/20：第2回プロギングを鴨川周辺で実施
- オーストラリアからヤスミン・プールさんがインターンシップで来日。9～10月京都YWCAで活動した。

KYOTO YWCA No.583 2024年11月号（11月1日発行）

発行人：山中あかね

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上上ル近衛町44

電 話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都YWCA

定 価：1部50円

発 行：奇数月1日発行